

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2022年度 助成者)

作成日 2022年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	宇留間優花 (ウルマユカ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2022年8月15日 (月) ~ 8月20日 (土)
大学名	名古屋市立大学
学年	6年

Hawaii Tokai International College での研修は5日間という短い期間でしたが非常に刺激的で充実した研修でした。主にハワイ大学の医学生が行なっている **Problem Based Learning (PBL)** と英語での問診の取り方、また問診した情報をもとに **case presentation** をする練習を集中的に行いました。

初日は宿泊施設の説明や授業の進め方のオリエンテーションを行った後、**Kathryn Shon** 先生と小林恵一先生からこの研修に臨む姿勢についてお話いただきました。特に小林先生の「君たちはここで英語を勉強してきたのではなく、英語を使いに来たのです。だから積極的にたくさん英語を話してほしい。」というお言葉はとても印象に残り、この研修で意識するようにしました。その後体育館でピザパーティーと簡単なゲームを行いました。今まで会ったことがない他大学の方々とゲームを通してお互いを知る楽しい会となりました。

2日目から本格的にレッスンがスタートし、この日は朝から夜まで **PBL** をやりました。始めは見慣れない医学英単語や **PBL** の進め方に戸惑いましたが、医学の勉強が進んでいる高学年の学生が低学年の子をサポートする形で始めました。低学年の子は鑑別疾患とそれに対するプランを考えるのは難しそうでしたが鑑別疾患を考える前の必要な問診時事項を考えることを頑張っている姿がとても印象的でした。また、低学年の子に教えることで私自身の知識の確認と定着を図ることができ、学年による医学知識・英語力の差はありましたが皆で力を合わせて取り組めたのがよかったです。午後はハワイ大学に移動して各グループに1人ずつハワイ大学の学生を入れて **PBL** を行いました。ハワイ大学の医学生は1年生であるにもかかわらず積極的に必要な問診や鑑別疾患を考えて取り組んでおり、入学して3週間しか経っていないとは思えないほどの知識量と勉強に対する熱意に驚かされました。

3、4日目は問診の取り方と **case presentation** の練習を行いました。**Shon** 先生からのレクチャーがあった後、3つのグループに分かれて各グループの中でさらに2人組を作って英語での問診の練習をし、その後問診で得た情報をもとにどんな患者さんが来院したのかグループ全員の前で発表しました。プレゼンはあらかじめ送られたフォーマットに沿ってまとめ、鑑別疾患と確定診断に必要な検査まで報告する形式でした。始めて人前でプレゼンをしたので緊張しましたが今まで培ってきた医学知識と医学英語を駆使してまとめることができました。午後はハワイ大学に移動し、日本の医学生2人が医師役、ハワイ大学の医学生1人が患者役となってより実践的な問診と **case presentation** の練習をしました。ハワイ大学の医学生は1年生から3年生までいて、2日目よりも多くの医学生と交流することができました。問診を取り終わったら別室で先生方にプレゼンをし、マンツーマンでフィードバックを受けることができました。特にハワイでホスピタリストをされている野木真将先生からはプレゼンをより簡潔にする方法や鑑別疾患の考え方など私に足りない部分をたくさん指摘してくださいました。

最終日は木村健先生、三木絹恵先生、**Robert V. Jao** 先生からレクチャーがありました。アメリカでレジデントになるために必要な試験や対策、アメリカの医療保険について知ることができました。特にアメリカの

医療保険は今まで勉強したことがなかったのでとても良い機会でした。最後に **farewell party** で修了証を受け取り、町淳二先生、Jao 先生といったベテランの先生から今ハワイ大学でレジデントをしている若い先生まで今後のキャリアのご相談をすることができました。

この 5 日間は医学英語の勉強だけでなくハワイ大学の医学生やハワイで活躍されている先生方、一緒に参加した日本の医学生と非常に多くの方々から刺激を受け、忘れられない 5 日間になりました。この研修の留学助成金をくださった小林先生はじめ私たち医学生のために協力してくださった多くの方々にこのような貴重な経験をいただけたことにこの場をお借りしてお礼申し上げます。私は将来海外で活躍する医師になることを目指しているので今回の研修で得られた繋がりを大事にして引き続き夢に向かって頑張りたいと思います。